



東北電力遊休地へのコンテナ型データセンター新設に向けた覚書を締結
～次世代型 GPU に対応したハウジングサービスの提供を目指す～

東北電力株式会社（本店：宮城県仙台市、代表取締役社長 社長執行役員：石山 一弘、以下「東北電力」）と、株式会社ゲットワークス（本社：東京都千代田区、代表取締役：中澤 秀則、以下「ゲットワークス」）は、コンテナ型データセンター新設に向けた覚書を本日締結いたしました。

本覚書は、次世代型構造の高性能 GPU サーバー^{※1}に対応可能な設備構成を備えたコンテナ型データセンターを東北電力の保有する宮城県内の遊休地に新設し、GPU の設置場所を貸し出すハウジングサービス^{※2}の提供を目指すためのものです。

両社では、2025年2月20日に開始したGPUクラウドサービス^{※3}に加え、短工期かつGPUサーバーの仕様に合わせて、柔軟に構築可能なコンテナ型データセンターを活用したハウジングサービスを提供することにより、東北6県・新潟県をはじめとした国内の生成AI利活用促進によるDXの加速と、新たな電力需要創出を伴う産業振興等に貢献してまいります。

【新設するコンテナ型データセンターの主な特長】

- ① 次世代型構造の高性能 GPU サーバーに対応した設備構成
今後の生成 AI の計算を支える次世代構造の高性能 GPU サーバーの収容を見据え、ベースとなるインフラ設計を最適化。加えて将来的な増設・構成変更にも柔軟に対応可能。
- ② 最新ネットワーク技術による低レイテンシー（遅延）環境の提供
複数拠点のクラウド基盤と高速接続可能なネットワークを整備し、推論処理・分散計算^{※4}に求められるデータ転送の遅延時間が最小限に抑えられたネットワーク環境を提供。

※1 生成 AI の計算に必要な GPU (Graphics Processing Unit) を搭載したサーバーであり、今後の販売が予定されているもの。従来のサーバーより消費電力が増え、より高度な冷却方法が求められる。

※2 お客さまが所有する GPU を、当社が用意するコンテナ型データセンターへ設置するサービス。

※3 遠隔地にいるお客さまに対して、インターネット経由で GPU の計算力を貸し出すサービス。

※4 推論処理とは、AI モデルを使って新たなデータから結果（回答や予測）を導き出すプロセスのこと。分散計算とは、膨大な計算処理を複数のコンピュータに分割して並列に行う手法のこと。いずれも、離れた場所にあるサーバー同士を高速につなぐネットワーク環境が重要となる。

以上